

□ 学校教育目標（全ての教育活動の一番上位にある目標）

- ・自ら考え、豊かな心と健やかな心身をもった子どもを育成する【のびゆく子】

□ 学校教育目標を具体的にしてみると…

- ・チャレンジする：学習や生活に関する課題に、どのように取り組むのかを自分で決めて行動すること
- ・相手を理解する：相手の立場を想像したり、共に協働したりして、互いに尊重しようとする
- ・やり切る：困難なことに対しても、方法や内容の改善を続けて、最後まで取り組むこと
- ・先を考える：先の出来事を推測したり、〇〇したいといった願いをもったりして行動すること

□ 昨年度（児童が自分で決めることを通して、主体的に学習に取り組む態度を涵養する）から（成果：○、課題：●）

- ：児童自身が自分の関心に合わせて学習に取り組むことができ、学習内容に対する意欲の高まりが感じられた。
- ：裁量権が児童にあったことで、児童自身の思いを生かすような余白が生まれ、創意工夫や試行錯誤する場面が多く見られた。
- ：必要感があり、児童自身の学習状況に適した課題に取り組むことができ、効率的に知識・技能の定着を図ることができた
- ：手立て自体が目的化してしまい、本時の目標と一致していない手立てになることがあった。
- ：プリントや発展課題の構想・作成に多大な時間がかかり、持続可能な形ではなかった。

⇒ 昨年度の取り組みにより、児童が自分自身で選ぶ・決める経験を多く積んだことで、自ら学習に関わっていこうとする態度が育ってきた。一方、手立てと目標の不一致や、課題を含む学習環境づくりに関して、効果的な法則を見つけるまでには至らなかった。

□ 今年度の学校教育努力点のテーマ案

自律して学び続ける子の育成 ―決定権を委ねる教師の在り方を仕掛けにして―

先述した「チャレンジする」「相手を理解する」「やり切る」「先を考える」子を育成していくために、児童自身がそのような姿に憧れやよさを感じるように学習をデザインしていく。そのためには、学習の中で見られた上記のような姿を価値付けていくことで学級や学校全体の集団規範を醸成したり、児童自身が学習を通して体感できるように仕掛けたりすることが必要になる。仕掛け方として、児童に時間や物に関する決定権をある程度、委ねていくことが考えられる。今年度は『どのような決定権をどれくらい委ねていくか』を共通の仕掛けとして、実践を進めていきたい。

決定権を委ねていく学習デザインの主な流れ

- ① 4つの姿からの重点項目を決める ② その姿が表出されやすい『決定権のある』学習過程を構想する
- ③ 本時の目標を決める ④ 本時の目標と重点項目の両輪が回っていくような指導案を構想する

* 児童の振り返りの内容やアンケートの変容から、実践の成果を質的に判断する。